

国際的な観光指標の導入を踏まえた 持続可能な観光の推進に関する実証事業

令和2年3月

概要報告

北海道運輸局

事業の実施概要

国際的な観光指標の導入を踏まえた持続可能な観光の推進に向けて、以下のとおり実施した。

1. GSTCトレーニングプログラムの実施

- (1) GSTCトレーニングプログラムの実施
 - ニセコ実施：令和元年9月30日(月)～10月2日(水)
 - 阿寒実施：令和元年11月5日(火)～11月7日(木)
- (2) アクションプラン案の作成（ニセコ・阿寒）

2. ペットボトルゴミ削減に向けた実証事業の実施（阿寒湖温泉）

- (1) 地域で協力し合い給水スポット提供および給水スポット案内を実施（地域で今後も継続）
- (2) 猛禽類医学研究所と協働したマイボトルの利用促進（地域で今後も継続）
- (3) 「くしろ阿寒百年水」のプロモーションおよび意識調査の為に試飲イベント実施
 - 令和2年2月1日(土)14:00-18:00
 - 令和2年2月2日(日)10:00-12:00

3. セミナーの開催

- 開催日時：令和2年2月18日(火)13:30-17:00

4. 上記1～3における関係者への情報共有および類似事業調査

日程	時間	トレーニング構成
1日目	13:00 － 18:00	<座学トレーニング> ・ GSTCとは ・ GSTC-観光地域用「観光地」における持続可能な観光の基準と指標を学ぶ
2日目	9:00－ 17:00	<座学トレーニング> ・ GSTC-観光事業者用 宿泊業、旅客業、小売業、ガイド業、農業など、観光に関わる全ての事業者における、持続可能な観光の基準と指標を学ぶ <屋外トレーニング（フィールドワーク）> ・ ニセコ：ライオンアドベンチャー ・ 阿寒：鶴雅グループ（SIRI）
3日目	9:00－ 17:00	<屋外トレーニング（フィールドワーク）> ・ ニセコ：神仙沼、道の駅ニセコビュープラザ ・ 阿寒：阿寒湖班エコミュージアムセンター、アイヌコタン、アイヌシアター「イコロ」 ※2, 3日目のフィールドワークでは現地を訪ね、GSTCの基準をどのように活用できるかを学ぶ

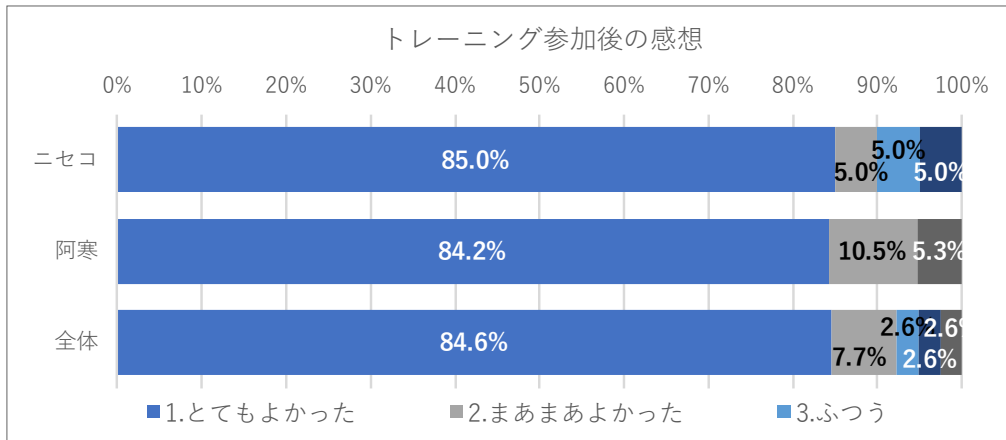
セミナー構成

- (1) 導入セミナー：「地球規模で求められる持続可能な観光地域づくり」
高山 傑氏(GSTC公認講師/Green Destinations 審査員/他)
- (2) 事例紹介：「事例に学ぶ～釜石の持続可能な観光地域づくり」
久保 竜太氏(株)かまいしDMC/他)
- (3) 今年度の事業報告とパネルディスカッション
 - ：鈴木宏一郎氏(株)北海道宝島旅行社)
 - ：高山 傑氏/久保 竜太氏/荒井 一洋氏(GSTC公認講師/他)

1. GSTCトレーニングプログラムの実施

受講前の取り組み意識の有無に関わらず、多くの受講者の取り組み意識を高めることができた。

受講前 受講後	1.まったく意識していなかった	2.少し意識し始めていた	3.意識して検討を始めていた	4.意識して検討し計画も立てた	5.意識して検討し計画を立て、実行していた	総計
1.今も特に取り組む意識はない	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
2.少し意識し始めた	12.5%	4.8%	0.0%	0.0%	0.0%	5.1%
3.意識して検討してみようと思う	62.5%	42.9%	0.0%	0.0%	0.0%	35.9%
4.意識して検討を進め、計画を立てたいと思う	0.0%	19.0%	42.9%	0.0%	0.0%	17.9%
5.意識は高まり、実行現場で役立てたいと思う	25.0%	33.3%	42.9%	0.0%	100.0%	38.5%
無回答	0.0%	0.0%	14.3%	0.0%	0.0%	2.6%
総計	100.0%	100.0%	100.0%	0.0%	100.0%	100.0%



参加後の感想として「1.とてもよかった」「2.まあまあよかった」を含めた満足回答は9割以上となり、非常に満足度の高い内容であった。



1. GSTCトレーニングプログラムの実施

GSTCトレーニング後、認証機関であるグリーン・ディステイネーションズへ申請・認証取得に向けた今後の流れについて説明とヒアリングを実施し、ニセコ町・阿寒湖温泉についてアクションプラン案を作成した。

アクションプラン案の作成（以下アクションプラン案より抜粋）

Green Destinations（GD）認定に向けたアクションプランについて				
Green Destinationsは、GSTC国際認証基準に準拠して、100基準を提示しています。国際的に持続可能な観光地として認定されるには、この100項目をクリアすることになります。				
最終的なGD認定を取るまでの中長期的な流れは 1年目：基本的な30項目をクリアし、「Green DestinationsTOP100」に選定 国際的に「阿寒が持続可能な観光地を目指している」と認知される。 2年目：60項目以上をクリアし、ブロンズアワードを受賞 3年目：70項目以上をクリアし、シルバーアワードを受賞 4年目：80項目以上をクリアし、ゴールドアワードを受賞 5年目：90項目以上をクリアし、プラチナアワードを受賞 6年目：100項目をクリアし、Green Destinations認定 「Top100」やアワードを受賞した時は、Green Destinationsの年次イベントと、ITBベルリン（ドイツベルリンで行われる国際旅行博）にて紹介され、世界の旅行関係者に「持続可能な観光地を目指す地域」として認知されることとなります。				
ここでは、一番初めに行う「Top100」には選ばれるまでのアクションプランをご提示します。100項目中の指定された30項目をどのように書くかについて、説明いたします。				
Top100（30項目）の申請書はOn Lineで作成し、申請します。GD事務局に連絡し、申請書作成のログインIDとパスワードを貰います。				
ログインをした後は、以下の30項目に関する質問がありますので、その質問に答え、その答えを証明する証明資料を添付します。申請書に打ち込む時の対応言語は英語だけです。添付資料は日本語のもので構いません。				
番号	タイトル	説明	実施内容	必要書類
1.1	Sustainability Coordinator（サステナビリティ・コーディネーター）	持続可能な観光地運営を、適正に実施し報告する責任と権限が与えられた担当者がある。	担当者氏名を記入する。	その仕事の職務明細書と担当者の職務経歴書を添付する。
1.3	Vision（ビジョン）	観光地がステークホルダーと協議して策定したビジョンは、持続可能性に関する原則を含み、一般に公開している。	観光地を定義する（自治体単位が考えやすい） 自治体や観光協会が策定したビジョンが対象となる。そこには「持続可能性」に関することが書かれている。 その観光地のビジョンと、ビジョンが出来るまでのプロセスを書き出す。ビジョン策定検討会議の議事録などが対象となる。	そのビジョンを添付する。 またそのビジョンやビジョン策定のプロセスが示されている資料が公開されているWebのリンクを張る。
2.1	Inventory（観光地のリストアップ）	自然や文化に関する観光資源のリストは一般に公開されており、また定期的に更新されている。	観光資源として、景観資源、自然環境自然、歴史文化資源、観光アトラクション、観光インフラ、利害関係者等がリストアップされていること。	観光資源のリストが書かれているWebのリンクを張る。

		措置を行っている。	どのように自然が保護されているかを説明すること。 方針、実施計画、法律、条例には、環境問題がどのように言及されているかを説明すること。	旨と証拠資料は4ステップ、①法律・条例がある、②実施計画がある、③実行されている、④結果をモニタリングしている。
5.2	Natural resource protection（自然資源の保護）	自然資源の保護は適切に計画され、実施されている。持続可能なでない利用は避けられている。	自然資源とは、石炭や天然ガスや水など産業に活用できる資源をさしている。温泉も含まれる。 いくつかの対象（水資源・木材資源・鉱物資源等）を選び、環境保護に関する問題点や課題について説明すること。 方針、実施計画、法律、条例には、環境問題がどのように言及されているかを説明すること。	それらの証拠書類を添付する。例えば、砂利採掘場の管理計画など。理想とされる実施内容と証拠書類は4ステップで①法律・条例がある、②実施計画がある、③実行している、④結果をモニタリングしている。
6.2	Animal Ethics（動物に対する倫理）	観光における動物の扱いにおいて、不必要な苦痛、病気、致死のリスクを減らすための適切な管理ができています。	対象となる動物を書く（キタキツネ・エゾシカ・ヒグマ・オオハクチョウ等）。或いは地域が、その地域の動物全般を対象としている場合は、そのように書く。 方針、管理計画、法律、条例において、動物の福祉がどのように保障されているかについて言及する。	それらの証拠書類を添付する。例えば、北海道動物の愛護及び管理に関する条例など。理想とされる実施内容と証拠書類は4ステップで①法律・条例がある、②実施計画がある、③実行している、④結果をモニタリングしている。
7.1	Landscape & Scenery（風景と景観）	自然と田舎の美しい景観が保護され、その土地らしさが維持されている。景観の悪化や、都市の無秩序な拡大から効果的に守られている。	風景や景観がどのように保全されているかを、具体的な地域名をあげて説明する。 方針、管理計画、法律、条例において、景観保全がどのように保障されているかについて言及する。	それらの証拠書類を添付する。例えば、景観条例など。理想とされる実施内容と証拠書類は4ステップで①法律・条例がある、②実施計画がある、③実行している、④結果をモニタリングしている。
8.2	Air pollution（大気汚染）	BA（ベースライン・アセスメント）に基づいて、大気汚染の影響とリスクへの適切な対策がとられている。観光が要因の大気汚染について、適切にコントロールされている。	BA（現状を把握するための基礎調査）を行い、どのような大気汚染が起きているかを確認し、明示する。 その大気汚染がどのように地域として認識されているかを説明する。	それらの証拠書類を添付する。例えば、大気汚染に関する調査報告書など。その課題について、地域へ発信している新聞や広報誌にある記事などを添付する。
9.4	Waste water treatment（排水処理）	適切な排水処理の計画があり、人々や環境への影響が最小化されるよう関連の規制条例などが整備されている。この計画には、浄化槽の配置、保守管理、排水の水質検査なども含まれる。	観光地においてどのように排水処理が行われているかを説明する。 最近ではどのような課題があるかを説明する。 それらがどのように対応されているかを説明する。	①法律・条例、②実行計画、③実行、④モニタリング結果などの書類を添付する。 住民説明会などの議事録を添付する。
10.1	Soft mobility（観光客が多いゾーンでは、（BAに基づいて）環境への影響を考慮し、環境負荷の高い交通手段を最小限に抑え、徒歩や自転車の利用を促進するソフト・モビリティ戦略がある。	移動手段についてどのような環境への悪影響があるかを説明する。改善に向けた計画などを説明する。 環境に影響の少ない乗り物やエンジンを使わない乗り物を推進することについて、どのように行動しているかを説明する。	観光計画においてソフトモビリティに関する方針が書かれている箇所などを添付する。実行計画として、ソフトモビリティの研修会やモデリッツアー等を実施した場合はその報告書を添付する。	
11.1	Solid waste reduction（固形廃棄物の削減）	廃棄物は適切にモニターされ、減量化、分別、リサイクル化を進めている。とくにプラスチック廃棄物の減量化に重点をおき、量的目標を設定している。	固形廃棄物の処理方法や、どのように固形廃棄物が減らされているかを説明する。 最近の課題は何かを説明する。	固形廃棄物の削減に関する資料（廃棄物処理の条例や実施計画など）を添付する。
11.2	Waste separation（廃棄物の分別）	自治体が回収する廃棄物と産業廃棄物をそれぞれ分別できる施設が備えられている。	どのような廃棄物処理のインフラが整っているかを説明する。 それらの施設はどのようなものがあるかをリストアップする。	自治体が発行する廃棄物分別表などを添付する。廃棄物処理施設のリストやWebサイトを添付する。

アクションプラン案により、実施内容や必要書類を確認することができたことから、既存の計画の確認や関係機関との調整、モニタリングの実施方法等を検討することができ、申請に向けた意識向上の効果があつた。

2. ペットボトルゴミ削減に向けた実証事業の実施

阿寒湖温泉ではペットボトルゴミ削減に向けて何ができるかを地域で話し合い、**(1)給水スポットの提供**と来訪者への案内、**(2)猛禽類医学研究所と協働したマイボトルの利用促進**、**(3)「くしろ阿寒百年水」のプロモーション**および意識調査の為の試飲イベントの実施を決め、それぞれ実施した。

阿寒湖地域でのセミナーとワークショップの様子



(2)猛禽類医学研究所と協働したマイボトルの利用促進



売上の一部が希少猛禽類の保護活動に充てられる猛禽類医学研究所とサーモスのコラボレーションマイボトルを「阿寒湖まりむ館」で販売開始した。現在は阿寒湖温泉にて取扱い店舗が増加し、販売数も伸び始めている。



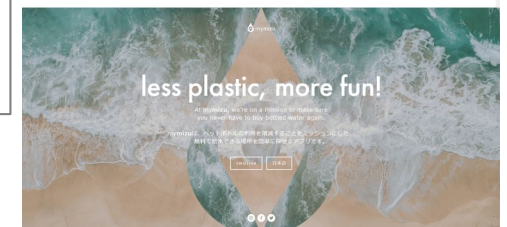
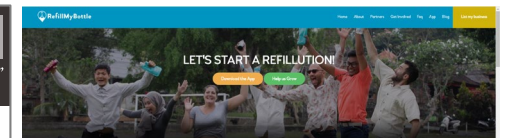
(1)給水スポットの提供と来訪者への案内

地域の給水スポット協力と給水スポットの共通ロゴ
現在、共通ロゴを貼付する事業者が増加中。

時期	選定した給水スポット
通年	阿寒湖まりむ館 阿寒湖アイヌシアター"イコロ" 阿寒湖バスセンター
夏季 (予定)	阿寒湖畔エコミュージアムセンター 阿寒湖畔キャンプ場 阿寒湖第1,第2駐車場



給水スポットを紙面MAPとMAPアプリで案内
夏季は提供スポットの増加が見込まれる。



2. ペットボトルゴミ削減に向けた実証事業の実施

「(3) 「くしろ阿寒百年水」のプロモーションおよび意識調査の為の試飲イベント」では、水の美味しさを知ってもらうとともにマイボトルや給水スポット、ペットボトルの利用および廃棄に関する意識調査も行った。

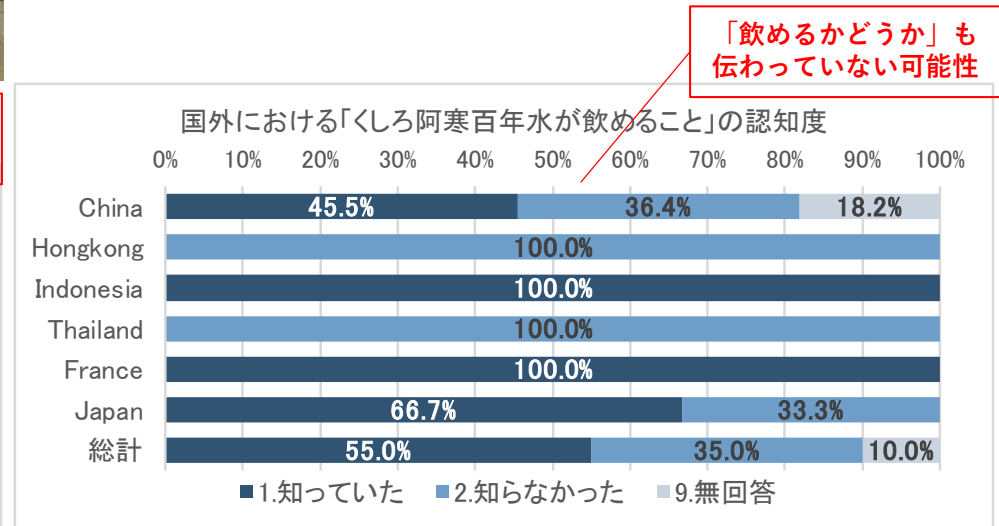
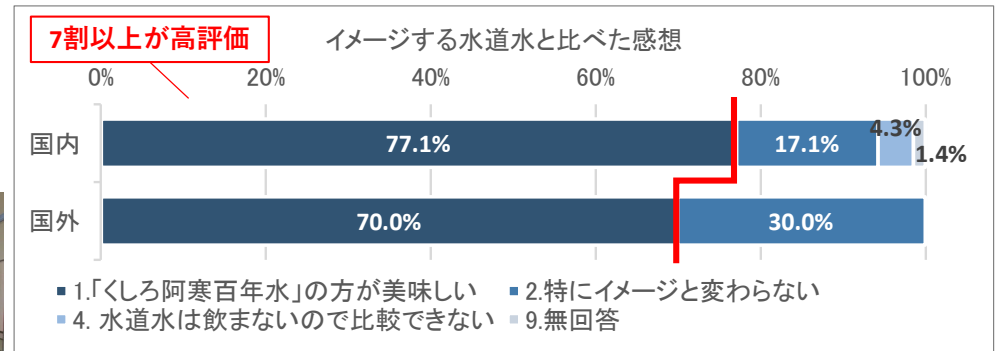
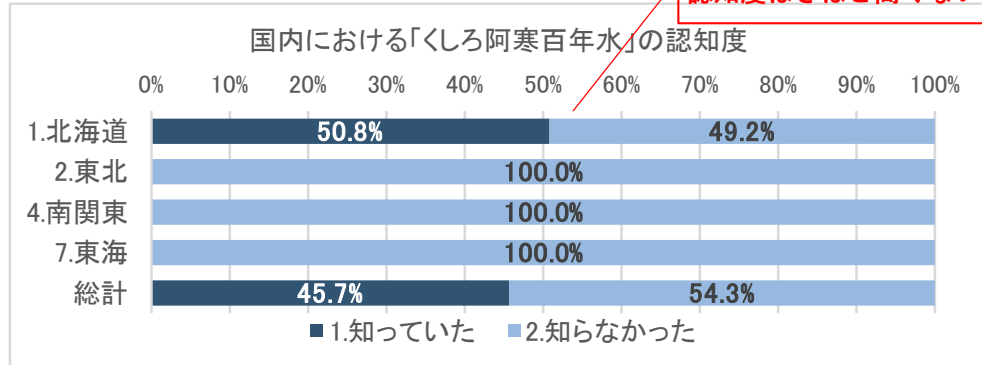
国籍	居住地	協力者数	回答に占める割合
国内	1.北海道	63	70.0%
	2.東北	1	1.1%
	4.南関東	5	5.6%
	7.東海	1	1.1%
	総計	70	77.9%
国外	China	11	12.2%
	Hongkong	1	1.1%
	Indonesia	2	2.2%
	Thailand	1	1.1%
	France	2	2.2%
	Japan	3	3.3%
	総計	19	21.1%
総計		90	100.0%

←試飲および試飲後のアンケート協力者内訳

↓イベントの様子



「くしろ阿寒百年水」の認知度はさほど高くない

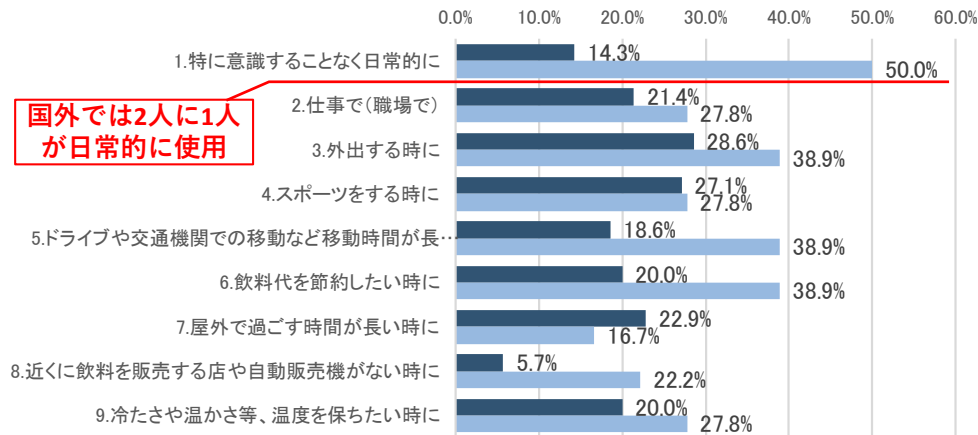


「イメージする水道水と比べた感想」にて「くしろ阿寒百年水」の「美味しさ」が伝わった。水についての認知度は国内外ともにさほど高くなく、今後給水スポットの利用促進を考える上では「飲める水として+美味しい+くしろ阿寒百年水」をアピールしていく必要がある。

2. ペットボトルゴミ削減に向けた実証事業の実施

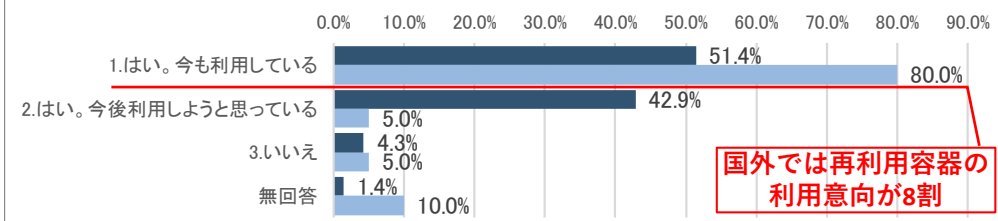
マイボトルの利用状況や、資源保護の意識からマイボトル（再利用容器）を利用する人の割合、給水スポットの利用状況のいずれも国内では国外に追いついていないことがわかった。国外では2人に1人が日常的にマイボトルを使用していることから、給水スポットの設置はペットボトルゴミ削減に効果がある。

日常生活の中で「マイボトル」を使用するのはどんな時ですか？ ■国内 ■国外

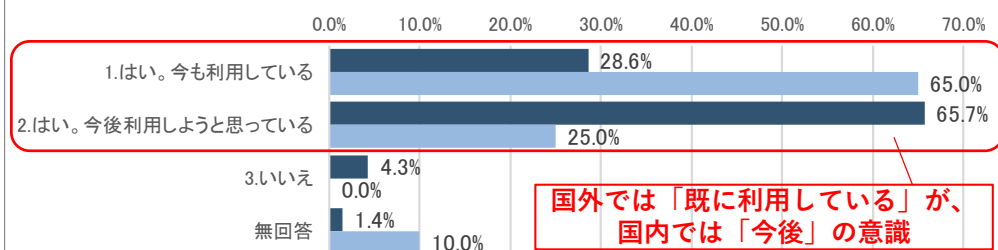


資源の使い捨てにならない為に

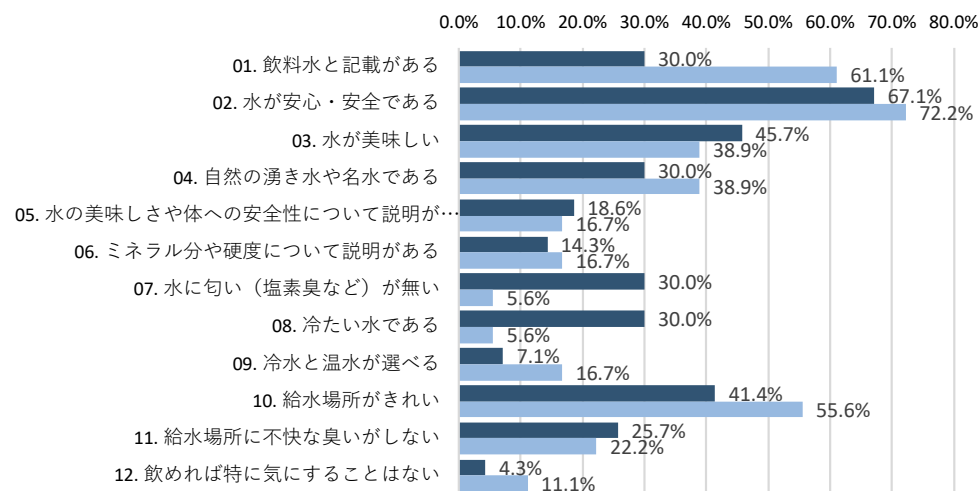
「マイボトル」等の再利用容器を利用したいと思いますか？ ■国内 ■国外



給水スポットがあったら利用したいと思いますか？ ■国内 ■国外



給水スポットで気になること



給水スポットで気になること

水が安心・安全である
飲料水と記載がある
水が美味しい
給水場所がきれい

国外

国内

1位
2位
4位
3位

給水スポットの利用促進においては、「安心・安全」「飲めること」「美味しさ」を提示し、「給水場所の清潔さ」に留意する必要がある。

3. セミナーの開催

セミナーは取り組みの必要性理解や意識向上を目指した「導入セミナー」、具体的な取り組みをイメージし取り組みへの意欲向上を目指した「事例紹介」、参加者への情報提供と意識づくりの為の「今年度の事業報告とパネルディスカッション」の3部構成で実施した。

(1)導入セミナーの様子



(2)事例紹介の様子



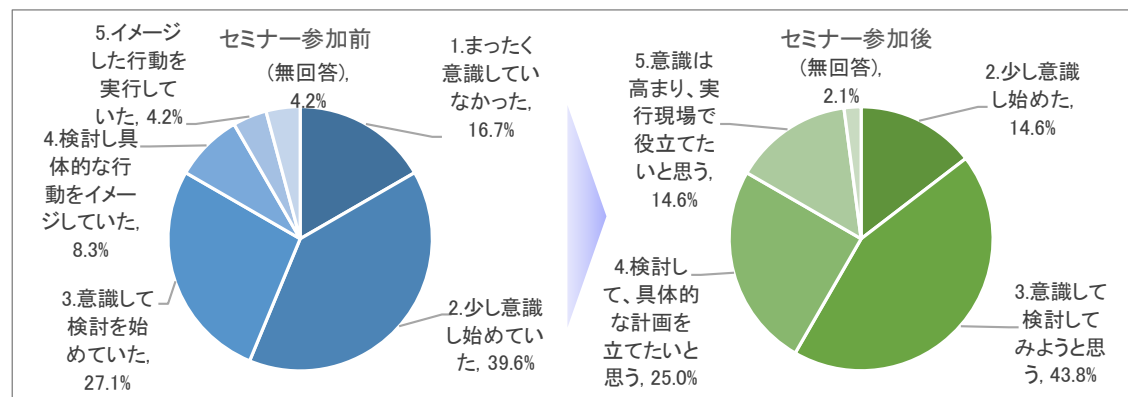
(1)今年度の事業報告とパネルディスカッションの様子



全参加者 「持続可能な観光の推進」 「観光振興」における立場	アンケート 回答者	左記以外	計
1.DMOや観光協会にて主体的に関わりがある	5	0	5
2.宿泊事業者として関わりがある	0	0	0
3.道の駅や特産品、土産品等、販売事業者として関わりがある	1	0	1
4.行政として関わりがある	24	11	35
5.ガイド等、滞在サービス事業者として関わりがある	6	2	8
6.ツアー造成等、旅行代理店として関わりがある	2	0	2
7.地域商工団体・組合等として関わりがある	1	0	1
8.地域住民として関わりがある	1	0	1
9.その他	8	2	10
計	48	15	63

参加者は「行政の立場」が約半分を占めているが、観光関係者や観光以外の立場の人も参加され「持続可能な観光の推進」に関する興味や意識の高まりを感じた。

セミナー後のアンケート結果は下記のとおりとなった。



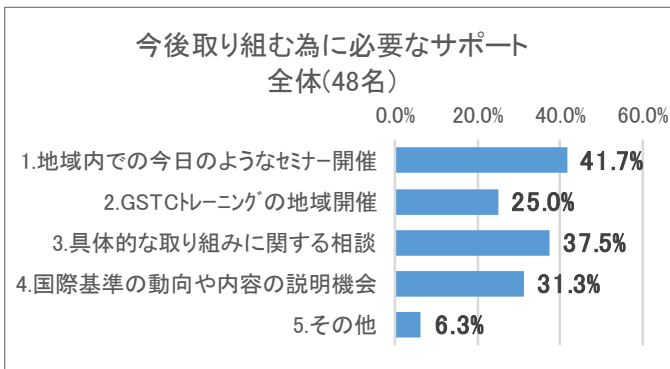
3. セミナーの開催

アンケートでは「無回答」を除き、参加者全員が「SDG s や持続可能な観光の推進」の取り組みへの意識が向上した結果となった。

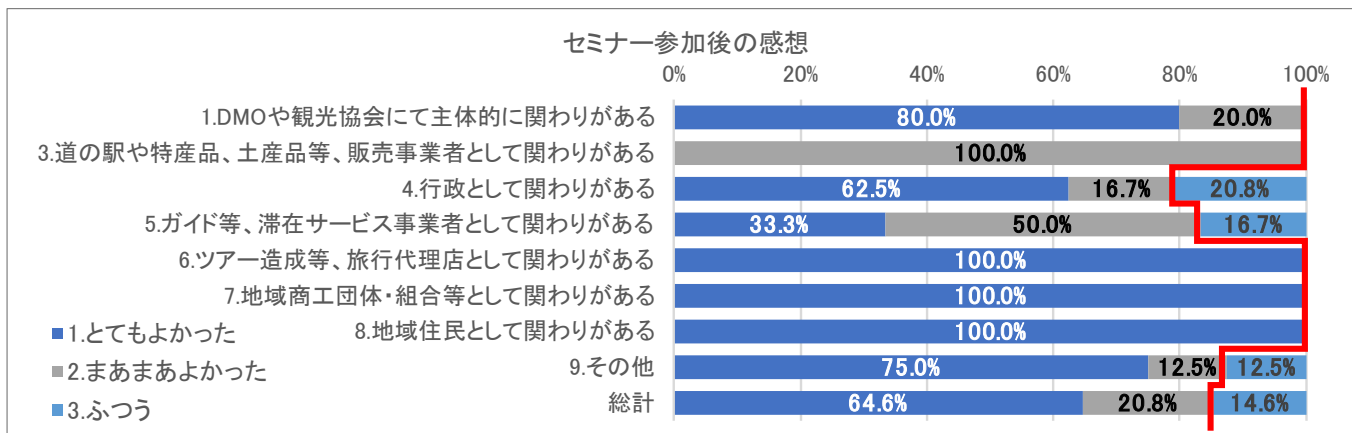
参加前の取り組みへの意識 参加後の取り組みへの意識	1.まったく意識していなかった	2.少し意識し始めていた	3.意識して検討を始めていた	4.検討し具体的な行動をイメージしていた	5.イメージした行動を実行していた	無回答	総計
1.今も特に取り組む意識はない	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
2.少し意識し始めた	75.0%	5.3%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	14.6%
3.意識して検討してみようと思う	25.0%	78.9%	23.1%	0.0%	0.0%	50.0%	43.8%
4.検討して、具体的な計画を立てたいと思う	0.0%	5.3%	69.2%	50.0%	0.0%	0.0%	25.0%
5.意識は高まり、実行現場で役立てたいと思う	0.0%	10.5%	7.7%	50.0%	100.0%	0.0%	14.6%
無回答	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	50.0%	2.1%
総計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

←参加後に「3.意識して検討する」「4.具体的な計画を立てたい」「5.実行現場で役立てたい」と回答した人は全体で8割強

↓「1.とてもよかった」「2.まあまあよかった」を合わせて満足回答した人の割合は8割以上



↑セミナーや相談など必要なサポートは様々



1～3の事業を通して実施した関係者への情報共有等より

本事業においては、講師や専門家等により都度できる限りの情報提供を心掛けてきたが、トレーニングやセミナーアンケートにて、「持続可能な観光の推進」に関する指標、ガイドライン、進め方等について多様な情報を求める声が多く、また今後の継続的な取り組みについて期待する声も多い状況にある。こうした意識の高まりに応える為にも、今後も「持続可能な観光の推進」に寄与する取り組みを実施し、さらなる取り組み意識の底上げと各地で実施される取り組みを支えていく必要がある。